

平成30年 環境生活委員会 開催状況

開催年月日	平成30年 9月10日 (月)		
質問者	民主・道民連合	広田	まゆみ 委員
答弁者	環境生活部長	渡辺	明彦
	文化局長	小出	幸希
	文化振興課長	高見	芳彦

質 問 要 旨	答 弁 要 旨
<p>一 ほっかいどう歴史・文化・自然「体感」交流空間構想素案について</p> <p>今回、ご質問させていただくのは、報道などでは、百年記念塔の存廃についての、限定的な議論が報道されていること、また、百年記念塔のあり方自体についても、今ご説明あったように、モニュメントとして再生するという方向が出されたと思うのですが、それだけでは、文化政策としては、矮小化しているのではないか、その思いで、これからパブリックコメントも始まる、議会議論も始まる場所ですけれども、方向性として確認していきたいということでお伺いをしたいと思います。</p> <p>(一) 次世代からの意見集約について</p> <p>この間、道として、いままでご説明がありましたように、次世代の子どもたちなども含めたワークショップや検討会議の開催など、なんとしても、きめ細やかな幅広い道民の皆様からの意見集約をしたいということで鋭意臨んできたことは承知をしています。</p> <p>検討過程の中でも、特徴的な意見などについては、資料としても添付されておりますし、道民の皆様にも解るように、ホームページでも公開されているものと承知しておりますが、ここから、何点か伺っておきたいと思います。</p> <p>まず、私自身が特に重要だと思っていました次世代からの意見集約について伺います。若い世代の意見集約についてですが、道民ワークショップなどを含めて、どのように、道として、次世代の声を集めるよう努力していくのか、また、次世代からの意見の傾向としては、どのようなものがあり、道としては、それをどのように受け止めているのか伺います。</p> <p>(二) 百年記念施設存続に向けたアンケート結果について</p> <p>資料編の4の2の・・・31ページにあたるのですが、このアンケート結果についても、広く収集していると思います。この中で、当然のことなのですが、世代についてもありますけれども、よく利用している人は、存続するという傾向が高いが、特に大学生の若い方達、道外出身者のところでは、財政論から、コスト論から解体もやむを得ないという回答も多いわけですが、それについては、どのようにして、</p>	<p>(文化振興課長)</p> <p>若い世代からの意見についてですが、本年5月に2回開催した道民ワークショップには、近隣の大学生や高校生にも参加いただいたほか、大学への出前講座や道内の大学生を対象としたアンケート調査を実施するなど、若い世代に焦点を当てて、幅広く意見の集約を図ったところです。</p> <p>若い世代からは、リニューアルした博物館について「好奇心を駆り立てられる。」などの評価する意見があったほか、開拓の村については、「当時の社会を追体験できる。」との声がある一方で、展示方法など、より一層の改善を求める意見があったところです。</p> <p>また、百年記念塔については、近隣の高校生の皆さんから地域のシンボルとして、存続を希望する意見も多かったものの、大学生からは、将来負担などの観点から解体することもやむを得ないという意見が多かったものと認識しております。</p> <p>(文化振興課長)</p> <p>百年記念施設に関するアンケート調査についてですが本年4月から6月にかけて実施した道内の大学生へのアンケート調査結果によれば、百年記念塔については、「知っている。」が25%、「行ったことがある。」が13%、「解体もやむを得ない。」は48%と約半分を占めております。このうち道内出身者に限った場合には、「知っている。」が32%、「行ったことがある。」が20%と比率が高まるものの、「解体もやむを得ない。」は、道外出身者を含む全</p>

質 問 要 旨	答 弁 要 旨
<p>道は受け止めたのか伺います。</p> <p>(三) 有識者の選定について</p> <p>私が、ここでご指摘というか、強調しておきたいのは、一つは、少し離れた事例になりますけれども、タウシュベツ橋梁、皆さんご存じでしょうか。ダム湖に沈む橋で、いま、本当にボロボロになって、もう来年解体、もう壊れてしまうのではないかと、崩落してしまうのではないかと、不安を持ちながら、本当に、崩れゆく橋なんですけれども、それが今、すごい観光スポットになっています。でもそこは、何でそこが観光スポットになったかということ、そこのタウシュベツの、糠平の地域の人たちが、鉄道の古い残ったものだとか、橋の魅力をコツコツと伝え続けた人たちがいて、そこが、本当の意味での文化遺産、産業遺産になっているということだと思いますので、こういうアンケートを踏まえれば、ある意味で、私自身は、この百年記念塔というのは、廃材を活用して、新たな再生の広場として、再生していった欲しいという思いはありますけれども、ただ、そういうことをやっただけでは、また、同じことの繰り返しになる可能性がありますので、その物をどうするかということだけではなくて、文化政策を推進する環境生活部として、どのように進めていくのか、この再生構想を進めていくのか、非常に重要だというふうに思っております。そして、今回の素案をまとめるにあたってですね、道民の皆さんのワークショップ、幅広く一般の人の意見を聞くということだけではなくて、庁内の会議というのは、ちょっと残念ではあったのですが、庁内に検討会議を設置して、有識者の方を招いて、それも公開でちゃんとやられたということで、そこは素晴らしいと思うのですが、私としては、有識者の選定にあたってですね、いわゆる文化政策に関しての専門家が不足していたのではないかと考えますが、道としてどのように考えるか伺います。</p> <p>大変に精力的に現場の方でヒアリングをしたことは大変承知をしております、努力をされたというふうに思います。これは私の私見になりますけれども、これまでの北海道の文化行政は、縄文遺産に象徴されるように、埋蔵文化を研究する人材の方が豊富で、まあ、それは教育部局の方が中心になると思いますけれども、充実をしてきたと思いますが、街の景観ですとか、建</p>	<p>体と同様に48%となっているところです。</p> <p>この結果については、大学生は、普段訪れることもないことから、なじみも薄く、さらに多額の将来負担を考慮すると、解体することもやむを得ないという意見が多くなっているものと認識しております。</p> <p>(文化振興課長)</p> <p>構想の検討会議についてですが、本年4月、再生構想を検討するために、観光、自然環境、公園、教育などの庁内の関係部局で構成する検討会議を設置し、様々な観点からの検討を行い、このたび素案として、取りまとめたところでございます。</p> <p>これまでの検討会議には、地域政策、公共政策、観光・文化、建築などの各分野の有識者をお招きして、様々なご意見やご助言等をいただいていたところです。</p> <p>このほか、道内の大学で、歴史的建造物を活かしたまちづくりや北海道固有の文化を研究している学識者、さらには、北海道文化審議会や北海道立総合博物館協議会の委員の方々にも貴重なご意見をいただいているところでございます。</p>

質 問 要 旨	答 弁 要 旨
<p>建築物ですか、まちづくり、或いはその、札幌にあります500m美術館、若いアーティストの人がパブリックなところにいるんな展示を公開して、街の文化というのを、底辺、底辺という表現はあれかもしれませんが、そこから高めていくというような、そういう視点が不足していたのではないかというふうに思いますので、今後も引き続き、先ほど部長のご答弁では、様々なご意見を聞きたいということですので、そうした視点も是非、考慮していただきたいと、パブリックアートの視点、文化の視点というの、まちづくりに関わる文化の視点というの、是非、付加していただきたいと思っています。</p> <p>(四) 先住民アイヌへの配慮について</p> <p>次に、この検討会の中の意見で、私がちょっと危惧をする部分がありました。アイヌ民族の歴史に敬意を表すということで、アイヌ民族の皆さんへの配慮から、記念塔を解体をし、何も残さないのがいいのではないかというようなご意見もあったように伺っております。私としては、強く、これに対しては、違和感を表明させていただきたいと思います。アイヌ民族の歴史にしっかり敬意を表すこと、いろんな差別や略奪やいろんなことの歴史があったということに、きちんと向き合うということは、私たちにとって大変重要なことですが、私たちの祖先が、明治維新という大きな変化の中で、過酷な自然環境に向き合い、今の北海道を築いたことを語り継いでいくためのモニュメントというか仕掛けというのは、非常に重要なことだというふうに思っております。道としては、そのモニュメント、何らかのモニュメントを残すという方向性は示されているところですが、民族共生の大地である北海道をどのように表現しようと考えているのか見解を伺います。</p> <p>(五) 今後の議論の方向性について</p> <p>最後に、今後の議論の方向性についてご確認したいと思いますが、知事は、報道番組、テレビのインタビューで、「百年記念塔をなにながしかの形で新しいものにするのであれば、私はアイヌの人たちをはじめとするいろいろな人たちの共生のシンボルとなるようなそういった施設であり公園空間になればよい。」と話されたということなのですが、今後の議論の方向性はこのように進むと考えるとよいのか環境生活部としての見解を最後に伺います。</p>	<p>(文化局長)</p> <p>新たなモニュメントについてでございますが、命名150年を迎えた北海道は、現在、欧州の一国にも匹敵するほどの地域となりましたが、この発展は悠久の歴史を持つ北の大地が刻んできた幾多の先人の営みの上に成り立っているものと認識しております。</p> <p>今回の素案では、老朽化が進展した記念塔は、安全性などの観点から解体もやむを得ないと判断し、その跡地に新たなモニュメントを設置するとしたところでございます。</p> <p>この新たなモニュメントにつきましては、「はるか太古から綿々と続く歴史・文化と今日の北海道を築き上げてきた幾多の先人の思いを引き継ぐとともに、お互いの多様性を認め合う共生の立場で未来志向に立った将来の北海道を象徴するもの」としていく考えでございます。</p> <p>(環境生活部長)</p> <p>今後の議論の方向性についてでございますけれども、このたびの素案におきましては、百年記念塔の解体に伴いまして、新たなモニュメントを設置するというふうにしたところでありますが、そのモニュメントは、先ほど局長の答弁にもございましたとおり、「はるか太古から綿々と続く北海道の歴史・文化と、今日の北海道を築き上げてきた幾多の先人の思いを引き継ぐとともに、お互いの多様性を認め合う共生の立場で、未来志向に立った将来の北海道を象徴する役割を担うもの」としたところでございます。</p> <p>知事の発言につきましても、これに沿ったものというふうに考えてございますが、いずれにいたしましても今後の方向性につきましては、今定例会でご議論をいただ</p>

質 問 要 旨	答 弁 要 旨
	きますとともに、広くパブリックコメントで道民の皆様から出されたご意見も踏まえまして検討させていただきたいと考えております。